



研究者名※	内村理奈	学位※	博士(人文科学)
所属※	家政学部 被服学科	職名※	教授
連絡先	uchimurar@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/7000011746		
研究分野※	生活科学、芸術学、史学		
研究キーワード※	服飾史、服飾文化、工芸・意匠・服飾史、西洋近現代史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	「近世・近代フランスの服装規範に見られるジェンダー観」、日本学術振興会 科学研究費助成事業、基盤研究(C)、2012年～2016年		
社会貢献・産学官連携活動等	島根県立石見美術館の所蔵衣裳に関する調査(共同研究)		
受賞歴	2017年4月 日本女子大学教員研究奨励金 2013年11月 お茶の水女子大学被服学奨学金 2011年6月 国際服飾学会研究奨励賞 2001年3月 衣服研究奨励賞(財団法人 衣服研究振興会)		

研究領域	服飾史、服飾文化、工芸・意匠・服飾史、西洋近現代史	(SDGs)	
研究テーマ※	近現代フランスにおける服飾文化の研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 17世紀から18世紀にかけてのフランス宮廷社会における身分構造と服飾との関係について、当時大量出版された礼儀作法書や、不慮の事故で亡くなった市井の人々の遺体調書などを用いながら、王侯貴族から庶民に至るまでを分析の対象として研究している。研究をはじめた当初は、特に、人間の感性の変化のありようと、服飾そのものの変化、そしてそれらがどのように、身分社会を映し出していたかを分析してきた。その成果は、博士論文として執筆し、『モードの身体史』という書籍にまとめている。その過程で、フランス18世紀のファッション・リーダーとして服飾史に必ず登場するマリー・アントワネットの人生を、彼女の愛好していた服飾の実態を調査することによって、分析を行うことになった。さらに、18世紀の宮廷社会、貴族文化は、一度はフランス革命によって否定されたものの、19世紀になってから、それらが懐古趣味的に復活してくる場合が散見されるため、19世紀以降のフランス服飾文化についても、関心をもって調査をおこなっている。19世紀にまで視野を広げたことによって、近年では、19世紀後半の印象派絵画にみられる服飾描写についても、新たに調査を進めはじめたところである。17世紀から19世紀という広い時間的推移のなかで、激動のフランス社会のありようと、服飾文化の関係を読み解いていくことが大きなテーマであり、目的である。</p> <p>【応用例、研究の展望】 上記のように、かなり幅広い関心をもって、研究を進めてきたが、具体的に、これまでおこなってきたテーマと現在視野に入れているテーマは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17世紀のギャラントリーという流行現象とリボンの流行、そして、18世紀の絵画への影響 ・清潔感と白いリネン類の関係 ・男性の帽子の作法と表象(女性のかぶりものとの比較) ・18世紀における部屋着モードと私生活の文化 ・花嫁衣裳と喪服の文化史 ・マリー・アントワネットをめぐる服飾文化と19世紀以降への影響 ・印象派絵画とその服飾描写、19世紀のモード産業やブルジョワ社会との関係 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀作法書とモード雑誌の言説と図像の比較 ・17世紀以降のモード雑誌研究 ・演劇や映画、文学作品における服飾の表象など、である。 <p>【研究方法の特色】</p> <p>研究方法の特色としては、文献史料(礼儀作法書、雑誌、回想録、手稿史料など)、図像史料(絵画、版画、いわゆるファッション・プレートなど)と、服飾実物遺品とを、相互補完的に扱いながら分析をおこなっていることである。研究室には、18世紀から20世紀までのモード雑誌の実物、ファッション・プレートなどを所蔵しており、またわずかながら、この時期のレースなどの服飾小物も収集している。そのほか、関連する研究文献を幅広く収集している。</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内村理奈『モードの身体史—近世フランスにみる清潔・ふるまい・逸脱の文化—』、悠書館、2013年 ・徳井淑子、朝倉三枝、内村理奈、角田奈歩、新實五穂、原口碧『フランス・モード史への招待』、悠書館、2016年 ・内村理奈『マリー・アントワネットの衣裳部屋』、平凡社、2019年 ・内村理奈『名画のドレス—拡大でみる60の服飾小事典』平凡社、2021年 ・内村理奈「写真以前のファッション・メディア—ファッション・プレート、広告、アート—」、『Fashion Talks…』vol.13、2021年、pp.14-25 ・
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服飾関連美術館・博物館、研究機関との共同研究 ・